



がんを知り、がんに向き合う 市民公開講座2015

外科系診療部長 畑 中 信 良

2015年2月1日(日)呉市文化ホールで市民公開講座2015(当院主催、呉市共催)を行い約1350名もの市民の方が来場され、盛況のうちに開始しました。

会場では呉医療センターの看護師・薬剤師・栄養士の相談コーナー、がん疾患に関するパネル展示・パンフレット配布などの様々に催しもあり好評でした。

第一部では『がんに向き合う医療最前線』と題して講演を行いました。

講演その1は「前立腺がんについて」を繁田正信泌尿器科科長、「婦人科がんについて」を澤崎隆婦人科医長、「頭頸部がんについて」を立川隆治耳鼻咽喉科・頭頸部外科科長の3名による医師から、各疾患の診断の流れや最新の治療法について、さらに、早期発見のために健康診断の大切さの説明がありました。

また、「分かりやすい説明について」を谷山清己院長と實森がん性疼痛看護認定看護師より講演し、当院では分かりやすい説明と患者さんの気持ちに寄り添う看護を実践していることを紹介しました。

第二部では『癒しのサウンドブレイク「ピアノ&ヴァイオリン演奏」』と題してミニ演奏会が行われました。バレンタインデーにちなんだ曲を選択し演奏していただきました。鷺宮美幸さんのピアノ、内山優子さんのヴァ

イオリンによる協奏が行われました。美しい生演奏の響きに魅せられ、会場全体が酔いしれました。

第三部では「宮川花子さんの特別講演」がありました。

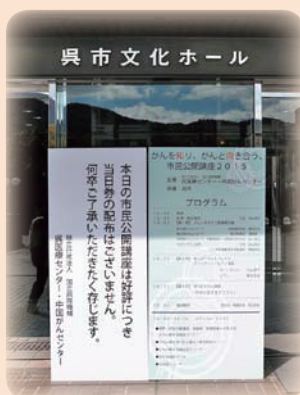
宮川さんが講演の冒頭で「私の夫をご存知ですか」などと話すと早速、会場からは笑いが起こりました。

花子さんが胃がんで病に倒れた時のお話は、特に感動的でした。花子さんが病気で心の余裕がなくなった時に、大助さんに言ってしまった言葉、大助さんが奥様である花子さんの体を大事にできなかったという後悔の気持ち等、ひとつひとつのエピソードが大変感動的でした。

また、夫・大助さんが脳梗塞で倒れたときや治療での病院のエピソードをユーモアたっぷりに次々と披露され“しゃべくり漫才”の口調で会場を魅了しました。

「大助・花子」として、長い間夫婦で漫才をしてきたご経験、夫婦・家族の家庭生活のお話など、面白おかしく、一方では涙をさそう感動的なお話をしていただき、大変盛り上がった講演会になりました。

ご来場いただいた市民の方々、準備に奔走した職員の皆様に感謝いたします。これを機会に少しでも多くの方が検診を受診し、がんの早期発見・治療を心がけていただくように切に祈念いたします。





がんを知り、がんと向き合う、市民公開講座2015

主催：独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 共催：呉市

